

平成 15 年 4 月 4 日

各 位

会 社 名 富士写真フイルム株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 古森 重隆
(コード番号 4901 上場取引所 東 大 名)
問 合 せ 先 経 理 部 長 三 木 正 弘
(TEL. 03-3406-2111)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向を踏まえ、平成 14 年 10 月 31 日の中間決算発表時に公表した平成 15 年 3 月期(平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想値の修正(平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	税引前利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,560,000	165,000	140,000	65,000
今回修正予想 (B)	2,494,000	158,000	118,000	47,000
増減額 (B - A)	66,000	7,000	22,000	18,000
増減率 (%)	2.6	4.2	15.7	27.7
前期実績(平成 14 年 3 月期)	2,401,144	168,682	159,549	81,331

(金額単位：百万円)

2. 当期の個別業績予想値の修正(平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	790,000	80,000	88,000	49,000
今回修正予想 (B)	793,000	82,500	90,300	43,200
増減額 (B - A)	3,000	2,500	2,300	5,800
増減率 (%)	0.4	3.1	2.6	11.8
前期実績(平成 14 年 3 月期)	847,747	95,083	100,688	57,160

(金額単位：百万円)

3. 理 由 (連結業績について)

欧米の経済成長の減速や国内景気の低迷により需要が全般的に伸び悩むなか、デジタルカメラや液晶電子ディスプレイ用部材は引き続き好調に推移しておりますが、国内印刷新販売会社設立時期が当初の予定よりズレたこと及び米国での印刷新販社 (Enovation Graphic Systems, Inc.) における総需減少による計画未達が重なったこと、又ドキュメントソリューション分野で国内不況による複写機の計画未達等の要因もあり、連結売上高は対前回予想値を 2.6% 下回る見込みです。

第4四半期に予定しておりました厚生年金基金解散に伴って発生する経費が、株価下落の影響を受けて、業績予想を公表した時点で想定した額より増加し230億円になったことも営業利益にマイナスの影響を与えております。本一過性の損失を除いた営業利益では、経費の効率化を進めたため1,800億円台(対前年+7.4%)に乗るものと予測されます。

税引前利益におきましては、株価下落を受け、銀行株を中心に保有しております株式の一部に合計で約140億円の評価損(営業外費用)が発生すると見込んでおります。

更に当期純利益に関しましては、上記に加え、外形標準課税導入による税効果のマイナス影響を今期決算に織り込む予定です。

以上のような状況から前回発表予想を下回る見通しとなりましたので、通期業績予想を修正致します。

以 上